114
A 125
2

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

# 第百八十五号　十三ノ巣

六月二十三日，ジャパシヘラルド」抄訳

六月六日カテインカセル琅嶠湾ニ着シ翌朝
早暁官ゼームスジョンヲ出シ土人両人ヲ捕
ヘシメリ此者ノ名ハミヤ及ビキエント称ス而
メゼ子ラルビゼンドルヨリノ使節之レニ逢シ
ヿヲ欲セルヲ以テ舟ニ連レ行キカヒタンカセ
ル彼等ニ此使節ノ来レル趣旨ヲ説キ聞セシカ
ハ此両人ノ者直チニ巣内者ヲランヿヲ承知セ
リ此謀畧ハカヒタンカセルヿテナントワヴン
又ヾアモイ在留ノ日本領事官福島ノ三人ニナ

ニ再ビ上陸シテ其日陣ヲ取ルニ適セル地ヲ撰
ム為メニ終日其近傍ノ地ヲ巡視シ陣地ヲ撰ミ
得タルヲ以テ翌日士官兵隊共ニ上陸シ又大砲
ヲ陸揚ケシ而メ撰ミタル地ニ陣ヲ取リタリ然
シ此地ハ戰ヒ始マリ内國ニ入ル件ハ少人数
ニテハ保チ難キ地ナル故ニ此灣ニ入ルニ目標
トナル山ノ西南ノ狹隘ノ地ニ陣ヲ移セリ
カビタンナセルハ常ニ渓内ニ住スル近傍ノ土
人ト交リヲ結ハンコトヲ勉メ居タリシカ之レニ
依テ大ニ幸ヲ得タリ則チ近頃ノ「ブータン」族ト
ノ戰ヒニ日本人ヲ助ケ且陣処ヲ營ム件土人五
百余人共切リヲナシタリ且ツカヒタンカセル
土人ニ説テ日本人ノ此度此地ニ来レルハ國法
ヲ定メ國人ニ安業ヲ得セシメ國人ノ夷俗ヲ改
メ國人ノ賊行ヲ禁セン為メナリト言ヒ聞セケ
レバ深ク悦ビ大ニ信セリ又カヒタンカセル土
人ニ對シテ日ク若シ日本人ノ為メニ信実ニ用ヲ為サ
ハ金銀典ヘント約シ而シテ太人ノ陣取リタル地處
ノ為メニ金銀ヲ與ヘタリ且各事ヲ金銀ヲ以テ賞セ
リ是レ輙チ琅璃ノ住民ヲ懐ケンニ為メナリ

五月十日ニ海軍守赤松氏首セリ赤松氏ノ乘リ
来リシ船ハ日新艦ノリ之レニ續キテ運送船數
艘首シ之レニ依テ人數五一人増タリ茲ニ至リ
テ以前既ニ言ヘルトーケトクノ子ノ幼弱ノ際
ハ後見職タルイーショノニ由テ南部ノ土人ニ好
情ヲ通セリ某モ此土人兇暴ヲ以テ有名ナル故
ニイーショクノ方ニ使節ニ行カシト任スル者ヲ
得ルヿ甚タ難カリシ然レ共首謀人ナリシカ
ヒタンカセノ使ヲゼ子テルレゼントルヨリ送
ルト称シテ使節ヲ遣シタリ蓋シレゼントル氏モ

此時ホルモサニ到ル途中ナル可シ而メレゼン
トル氏イーショクニ遇ハシヿヲ大ニ希望スト云
シ送リタリ且ツカセル氏大ニ勉励シテ丈那人
ノ日本人ヲ妨害セン為メニ日本人ノ此地ニ来
レルハ此地ノ人ヲ殺サン為メナリト云ヒ觸ラ
セシヲ説破シタリ
此使ニ對シテイーショノ答ヘ曰ク日本人ノ企圖
ハ我レ也ノ悦フ所ナリ然レ𪜈貴國ノ陣中ニハ
至リ難シ故ニ近傍ノ村落ニ日本ノ將校又ハ
カセル氏ニ會セシ使還リニ其旨ヲ報シケレハカ

セル氏曰ク予未ダ彼等ニ接セラレザルト見エタリ然ラハ則チ赤心ヲ現ハサン為メ予護兵ナシニ會可シテ復其一云ヒ遣リタリ

翌日陸軍將谷、海軍將赤松、カヒタンカセルレフテナントワツント同行ニテ約セル村落ニ赴キケレハイーシヨク此地ノ大且美ナル家ニ迎ヘ入レタリ此時イーシヨクハ護兵五六十人召シ連レ来タレリ始メカヒタンカセル自ラレゼントル氏ノ使ト称シ而シテ前ニ使ヲ以テ云ヒ送レル事ヲ再ヒ説キ示シ大ニ土人ヲシテ日本人ノ好意ヲ感ゼシメタリ而シテイーシヨク日本人ノ土人ニ害ヲ加ヘザルト云フヿヲ知リタリ斯クノ如クカセル氏説キ諭シ然ル後チ日本使節ホルモサ島ノ足下ノ領知ノ海岸ヲ測量センヿヲ欲セリ故ニ足下管轄ノ人民ニ對シ日本使節一行ノ人々ハ國人ノ信友タルヲ以テ其船ニ彈丸ヲ放発ス可カラズト觸レ示サンヿヲ望メリイーシヨク之レニ答ヘテ曰ク日本人懼ルハヿナシ其欲スル所ニ行リ可シ然レ共南部ノ住民ハ我管轄外ナルヲ以テ之ヲ如何トモスルヲ得ス怨ラクハ其地ニ至

リ船ヲ出サバ彈丸ヲ放発スベシ予望セラクハ
此危キ地ニ日本人ノ到ラザランコトヲト此時カ
セル思ヘラク長談ハ不可ナリト故ニ是レニテ
公事ノ談判ハ休ミタリ其時イーショク既ニ用意
セルト見エテ饗應ヲ設ケ置キ諸酋長退カント
セルヲカセル氏呼ヒ止メ共ニ飲食センコトヲ望
ミ祝盃既ニ終リテ日本使節各ク去ラントスル
時海軍將赤松氏赤心ヲ表スル為メナリトテイ
ーショクニ「ライフル」銃三挺ヲ贈リタリ
此會ニ於テイーショク ゼネラル レゼンドル氏ヲ



甚タ信ズト云ヘリ然レトカビタンカセル氏ハ
実ニレゼンドル氏ノ使節ナルヤ如何ト疑ヒテ
只我ヲ欺ク為メニレゼンドル氏ノ使節ト称セ
ルナリト察セル様子ニテ陣中ニ来タランコトヲ
望ミシ時レゼンドル氏當地ニ着セル時至ル可
シト云ヘリ此時日本使節ノ人々ハイーショクノ
護兵ニ送ラレテ帰リタリ
数日後ニ海軍將赤松氏ハ新艦ニ乗ジテミョード
ベイ及ビトイラサキノ河ノ下ノ東岸ヲ巡見セリ
其途中コーロッパ及ビリンワンニテ砲發セル故

ニ此土人ヲ懲サントシ其用意ヲナス為メニ碇
泊處ニ戻リ赤松氏始メハ日新艦ニテリンワン
ヲ襲撃セントシ欲セシカ又シアリオーヨリ兵ヲ
コリロツニ進メテ之ヲ攻メント謀レリ然レ共
カビタンカセル氏イーショリト會シ之レニ依テ
得タリシ南部トノ親睦ヲ破ランヿヲ恐レ赤松
氏ヲシテブリタニ族及ビコーサコート族ヲ撃
シヿヲ勸メタリ
五月十七日ヲブリタニ領ニ行キタル少人數ノ
一隊其帰路ニ於テ伏兵ノ中ヲニ陥リ一人殺サ



レテ其首級ヲ奪ハレタリ二十一日ニ日本人十
二人出テ道遥セシヲ土人三十人許ニテ侵撃セ
シ故日本人防キ戰ヒ土人両人ヲ打チ取リ一人
ニ手ヲ負セタリ其時ニ援兵ノ来レルヲ見テ土
人逃ケ散リタリ蓋シ其逃ゲタルハ日本人ヲ伏
兵ノ中ヲニ陥イレン為メナリ此戰場ハブリタ
ニ領ニ進行スル路ナル石門ニ近キ処ナリ此処
ニ土人止マリ日本人ヲ抛撃ミン策ナルヿヲ案
内者タルミアノ報告ニ依テ知リタルヲ以テ陥
穴ヲ掘リ一挙シテブリタニ族ヲ捕ヘントノ企

ヲ走シ陷穴ヲ石門ニ對シテ設ケ而シテ此処ニ
ブーダン族ヲ引キ寄セ夜ノ間ニホンカンヨリ
其後ロニ廻リ其帰路ヲ断ント謀ヲ定メタリ然
ル処陣外ニ進シテ終夜止マリ在リシ一隊ニブ
ーダン人寄セ来リシ故ニ之レト戦ヒ追ヒ戾セ
シニヨリ其謀竟ニ成ラザリシ此戦ヒニ日本人
六人歩死シ十人手ヲ負ヒブーダン人ハ十五人
歩死シ三十八人手ヲ負ヒタリ此時兵士ブーダ
ン人ノ十二ノ首級ヲ携ヘ帰リ且ツ種々ノ兵器
ヲ分取リセリ但シ此戦ヒハ勝利ヲ得タレ共一



挙シテブーダン人ヲ盡スベキノ策ハ畫餅トナ
レリ尤モ海軍將赤松氏兵ヲ引キ揚ン事ヲ号令
セシカ兵士勇氣盛ンニシテ勝ニ乗セル故ニ最
早戦ヲ止ムルヿ難シト思ヘルヨリ此号令ヲ止
メタリ
五月二十二日ニ惣督西郷氏著セリ之レニ引續
キテ支那軍艦二艘港内ニ入リタリ是レ即チ福
建ノ令ノ西郷氏ヲ訪問セン為メニ来レルナリ
此支那船翌日還リ去シガ其前ニ日本國旗ニ向
テ祝砲ヲ発セリ

同日ニ案内ハ日ミアカビタンカセル氏ニ告ケ曰
リイーショリヨリ牛豚雞数頭ヲ贈リタリトカセ
ル氏之ニ答ヘ曰ク予ハ予ヲ信ゼサル者ノ贈物
ヲ受ケズ且ツ曰ク此度大将西郷氏著ニ相成多
クノ贈物ヲ持来リ且レゼンドル氏ノ使ヲ同行
セリト又イリショリ日本人ニ信実ヲ表セサレハ文
日本人モイーショリヲ友愛セズト告タリケレハ茲
ニ於テカセル氏ノ意ノ如クイーショリ廿四日ニ陣中ニ来
訪センヿヲ約シトーケトクノ子モ亦彼ト共ニ来訪センヿヲ
約セリ其應接處トシテミアリヤオノミアノ家ヲ借リタリ



二十四日ニカセル氏ニイーショリトーケトクノ嫡子及ビ
下酋長両人コーロツノ酋長ミアノ家ニ待居ルノ報告
アリタリ之レニ由テ大将西郷氏谷氏カビタンブロ
ウン氏ハウス氏舌宮三人及ビ贈物ヲ荷ハセテミア
リヤオノミアノ家ニ至リ其景況ヲ見ルニ家ハ
美シク飾リ諸酋長ハ兵器ヲ持セズ椅子ニ坐シ
テアリタリ日本人ノ来著ヲ見テ都テ立チテ祝
辞ヲ述ヘタリ此時カビタンカセル氏ハ日本人
ノ世話ヲナシイーショリハ土人ノ世話ヲナセリ
坐定マリテ後チ左ノ談判始リタリ

カビタンカヒル氏イーショクニ對シテ曰リ予足下ヲシテ總督ニ面謁セシムルニ至リ大ニ悅ブ所ナリ總督ノ今タ茲ニ來リシハ足下ノ我輩ヲ信スルノ深悅ヲ告ン爲メナリ

イーショクリ之レニ荅ヘテ曰ク予日本人ヲ信ス且ツ今日茲ニ來リシハ物ヲ贈リ信ヲ表セン爲メナリト

カヒル氏曰リ茲ニ足下ニ對シテ議ス可キ一支アリ之レガ爲メニ足下ヲ招キタルナリ乃チ其支ハ足下ノ招キテ信ヲ表セル南部ノ住民我永世



ノ友人ナリ故ニ之ヲ苦シメサル而已ナラス之ヲ護衛セン然レモ一種族ノ免ス可ラサル者アリ之レブータン族ト之ヲ助ケンコーサコーツ族ナリ之ヲ捕ヘテ誅セン日ノ東ニ出テ西ニ沒スルカ如ク決シテ誤ルヿナシ予聞クニ「ラバリ」「ドイル」「ラソック」等ノ諸族山ヲ廻リテ兇惡ノブータン族ニ合セントスト若シ此支實説ナラハ足下及足下ノ管轄スル庶民嚴罰ヲ受ク可シ且ツ告ク日本兵ブータン族ヲ擊ツヿ此族中ノ者罪ヲ免カレン爲メ足下ノ領地及ヒ日本ニ信ヲ

セシ地ニ隠レントス可シ然ル時ハ足下ノカノ
及ヲ犬ヶ防キテ匿シ置ク可ラス来ラハ捕ヘテ
日本人ニ渡ス可シト
イーショク答ヘテ曰ク足下ノ今説ク所正シク而
メブータン族ノ兇悪ナルヿヲ予能ク知レリ我
民愚ト虫敵ヲ助ケテ友人ヲ打ツ者ナシ若シブ
ータン或ハ「コーサコーツ」族中ノ者来リナハ必
ス捕ヘテ日本人ニ渡ス可シ而メ我管轄内ノ一
村ブータン族ノ村ノ路ニ當レリ故ニブータン
族ト誤マラレ苦シメラレンヿヲ懼ル我民ハ善
良ノ者ナルヿ予甚タ信ス故ニ此民ノ保護アラ
ンヿヲ希望スト
カセル氏曰ク予此民ハブータン族同盟ノ者ニ
テ近日ノ戦ニ大ニ苦シメラレタリト思ヘリ然
レモ若シ足下此民ノ信実ナルヿヲ保証セハ此
民ヲ苦シメザル可シ且ツ問フ近日我船ショー
ド、ベイニ行キ海岸ヲ見居民ト交リヲ結ハント
セシ所ロッロッ及ビリンワンハ我船ニ砲發セリ
此所業不友タル而已ナラス戰ヲ求メシナリ然
レモ此等ノヿニ我軍ヘヲ皮ラシカ為メ敢テ意トセサリシ尤モ斯クノ如キ所業ヲ

再ヒ為サハ地球上ニ居ル所ナカラシメンノミト

始メ日本人此家ニ入リシ時ーショクガコーロッノ酋長至ラズト云ヘリ然シコーロッ村ハ日本人ノ友愛ヲ希ヘトモ茲ニ来ルヿヲ肯セスト云ヒタリト、カヒタンガセル氏之ヲ以テ日本人ニ砲発セシコーロッ村ヲ攻メン為メニ斯クノ如ク云ヒシ時イーショクヒレノ次ニ坐ヲ占メシ者ヲ指シテゴーロッノ酋長茲ニ在リト云ヘリ且ツ砲発ハ此村ノ小児鳥ヲ撃タントシテ誤テ日本船ヲ撃チタルナリトノ辯解ヲナセリカセル氏此支吾セル云ヒ解ヲ尤モナリト頷シ然レ共コーロッ人ハ日本友愛保護ヲ受クル前ニ實効ヲ立テザルヲ得スト云ヘリ

カセル氏曰ク瑯璚湾ハ氣候ニ由リテ波荒ク船中ノ人陸ニ上ルヲ得ス故ニ他處ニ地ヲ求メザルヲ得ストイルラック河ノ東岸ハ此目的ニ適スレバ此ヒヲ借リ入ントスル但シ足下ノ買入ノ價ノ割合ニテ之ヲ借ンヿヲ欲スト

イーショク答ヘ曰ク我輩ハ足下ノ信友ナレハ

此嶋ノ南部ニ於テ上陸スルニ何レノ地ニテモ
妨ナシ但今足下ノ示ス所ノ地ハトイルラリッ
ニ属ス故ニ其村ノ長ニ談判アル可シ最モ南部
ノ諸族ノ地ニテ薪水ノ為メニ上陸スルニ害ヲ
為スモノナシ若シ害ヲ為ス者アラハ予自ラ案
内者トナリ害ヲ為サシ地ニ導キテ共ニ其地ノ
者ヲ誅ス可シト
以借地談判ハ此席ニ列ラナリシ諸酋長ハ不満
足ノ様子ナリシト然レトカセル氏ハ都テ満足
シテアリシト云ヘリ而シテ祝盃ヲ挙ゲタル後チ

諸酋長ニ對シテ若シ足下等此處ニ宿泊スナラ
ハ大将悦ハシテ陣中ヲ見セ且ツ調練及ヒ大砲
撃チ方見セント云ヒシニイーシヨク答ヘテ
我家ニ於テ諸友人我帰ヲ待タ案シ居ル可シ明
早朝陣中ニ行ク可シト云フテ去ラントヲ望メ
リ故ニ諸酋長ニ種々ノ物ヲ與ヘイーシヨクニ
ハ美麗ナル日本刀ヲ與ヘ然ル後別レノ辞ヲ告
帰陣シ諸酋長モ帰リタリ
此會合ニ於テカセル氏諸酋長ニ對シ日本ニ信
シ表セル諸村落ニハ日本ノ旗ヲ附與セント約

セリ此旗ヲ立テタル村落ハ日本ノ保護ヲ受ケ
且ツ日本人其地ヲ通ル時友國タルヿヲ知ルト
之ヲ聞キテ諸酋長殊ニイーショクハ速ニ之ヲ
受ケンヿヲ欲シ旗十六竿得ンヿヲ願ヘリ而メ
之ヲブータンニ及ヒコーサコーツノ西族ヲ除キ
其他ノ諸族ニ分與シ日本ノ保護ヲ受ケシメン
ト欲セルナリ此時カセル氏答ヘテ曰ク旗ハ未
ニ用意之シ無シ但シ旗ノ用意整フ時ハ今此席
ニ來レル諸酋長丈ケニ附與ス可シ其他酋長ハ
茲ニ來リ実効ヲ現ハセル後ニアラザレハ旗ヲ
與ヘストイーショク曰ク若シ他ノ酋長之ヲ聞
カハ悅ヒテ來ル可シト答ヘタリ
之ノ説ヲ得タル蒸氣船此會合ノ翌日此港ヲ出
帆セシ故其後チノヿハ知ラス故ニ此後ノ話ハ
他日ヲ待ツテ聞クヿヲ得ベシ

蘭　鑑訳